▼戀の響

帝國キネマ時代映畫

原作並脚色者　小國比沙志氏
監督者　森本登夏男氏
撮影者　立花幹也氏
主演者　山下澄子孃
　　市川百々氏

紹介

曾つて阪妻が「俠血」に於て試みた一種の客二方法なゝの總模倣した樣な映畫で、百々之助氏はほんの申譯にしか出て居ない、主演は百々之助氏門下の百三氏と山下澄子孃が最初の女賊役を演じて活躍して居る。小國比沙志氏の原作並脚色は連續ものゝ途中から見た樣な感がする物語で、筋や人物に少しも整頓さがないのが短所だが場面々々の興味は充分あつた。森本登夏男氏の監督は大して力を入れて居ないが山下澄子孃が女賊と名乘つてからの扱ひに一寸好い個所があつた。百々之助氏の出し方や亂闘は頗る御粗末であつた。山下澄子孃のお芳は今度は好く動いて居るが小町娘から女賊への巻り目が未だはつきり出せなかつた。市川百三氏の藤吉は扮裝から演技まで百々之助氏に模して居るだけでも嫌味なのに殺陣の型まで態とらしく眞似るなど困つたものだ。その他百々之助一黨が力演して居るが皆どんぐりの背競べに過ぎない。市川百々之助氏の助演は隨分客を馬鹿にしたやり方で感心出來ない。

興行價値——市川百々之助氏特別助演なら解つて居るが主演と銘打つては上映館の信用にかかはると思ふ。然しそんな事を無視したらやはり書く事だ、その方が客が確かに來る。（七月廿八日　大阪芦邊劇場　神戸相生座　京都キネマ倶樂部封切）